

## 第32期第5回理事会議事録

日時：2003年10月15日（水）18時20分～20時45分

会場：せんだいメディアテーク会議室（7階）

出席者：廣田、古川、伊藤、岩坂、岩崎、岩嶋、勝山、神沢、木田、栗原、近藤、住、田中、津田、中澤、新野、藤部、藤吉、萬納寺、宮原、山内、以上21名

その他の出席者：中村（仙台管区気象台）、藤田（仙台管区気象台）、岡本（東北大学）（以上大会実行委員）、館（事務局）

議事に先立って、廣田理事長から、秋季大会を担当した東北支部に対して感謝の意が表明された。

## 議 題

1. 2005年度日本気象学会秋季大会の担当機関について  
2005年度日本気象学会秋季大会は関西支部が担当し、神戸で開催する予定。
2. 2004年度事業計画について  
2004年度事業計画の案に対し、今後修正していく。
3. 第33期役員選挙について  
牧野行雄会員（気象庁）が選挙管理委員長を引き受けることを了承した。
4. 第32期第1回評議員会の提言に対する理事会の対応について  
今年3月に開催された第1回評議員会で提言された課題を整理した。年内に各委員会が対応案を作成することとする。巽 保夫氏が評議員を辞退し、代わりに藤谷徳之助会員（気象研究所）が評議員になることが了承された。
5. 学会運営に関する諸問題について
  - 5.1 会員制度の見直しについて  
第32期第13回常任理事会で確認された事項を総合計画担当理事が説明した。適正な数の通常会員を確保することに努めることとし、示された基本的な方針で作業を進めることが了承された。「天気」誌上に掲載する趣旨説明の文言をさらに検討すること、支部の規約に矛盾が生じないように対処する必要があることが確認された。
  - 5.2 支部経費のあり方  
第32期第4回理事会でも議論されたように、支部

活動のための経費をどのようにまかなうかが問題となってきている。これに関して次のような議論があった。研究組織は学会活動を支える義務がある。大会の会場費、集会の参加費を研究組織が負担できるようにならないか。研究組織から資金を集めることを支部で行うのは困難なので、本部の役割ではないか。今後、何か良い例を出して欲しい。

## 5.3 2004年秋季大会予算

2004年秋季大会の予算見積もりを九州支部の理事が説明した。

## 5.4 レター誌的電子ジャーナルのあり方について

総合計画担当理事がレター誌的電子ジャーナルの基本コンセプト、発行運営体制、予算計画、発刊までのスケジュールなどを説明した。レター誌的電子ジャーナルを新たに発刊するという方針が了承された。

## 6. その他

6.1 アメリカ気象学会 (AMS) から AMS 主催のレーダーコンファレンスを2007年日本で開催できないかとの打診があった。

6.2 国際科学会議 (International Council of Science ; ICSU) は1957～8年の国際地球観測年 (IGY) から50年後の2007～8年、第4回国際極年を計画している。学術会議極地研連で対応を考えるが、気象学会関係でも積極的な提案・関与をお願いしたい。

6.3 ポインターなど大会に必要な物品をを本部で一式準備してくれると良いとの要望を東北支部が述べた。

6.4 IUGG 札幌は赤字ではなかったことが報告された。

平成15年11月17日

社団法人日本気象学会

議 長 萬納寺信崇

署名人 勝山 税

署名人 古川 武彦